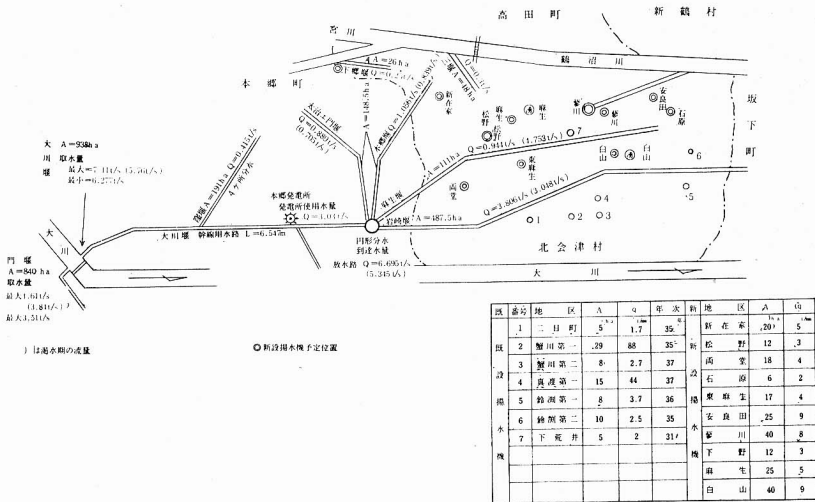


北会津村幹線水系分布図



47 所分水

とも奇妙な名称と思われるか知れない。

下荒井という村は、もともと旧鶴沼川扇状地の末端にできたので、北端に白山沼の湧水地をもち、城廓があり、本町が南北に走って蓮華寺・熊野神社が南にあり、馬市の立ったのも村南のようであるから、村の形態は南北に走っていたのが、もとの形であった。これが東西に走る立派な宿駅のような形をなし、その大半には屋敷割りをした計画的部落のようにさえみえる。このそもそもの起りが、どうやら銀山街道に主因がある。

その銀山は柳津の南にある軽井沢で、永禄元年（一五五八）村民の松本左文治なる者が発見、翌年開坑、天正三年（一五七五）には、日々の製銀が九〇〇斤、繁盛を極めたというから、開発は既に古い。輩名盛氏からその子盛興の代であるが、その銀を城下に送ったと思うが、その経路まではわからない。

軽井沢銀山は、その後一旦休止して、元和二年（一六一六）蒲生三代の忠郷の代に再興され、翌三年には毎月三〇〜四〇貫の銀を産したという。この主な搬出路が、松坂・